

道徳科学習指導案

指導者 T1 大原 佳子
T2 大明地 洋子

- 1 日時 令和元年11月19日（火） 第3校時
- 2 学年 第1学年 （31名）
- 3 主題名 弱さを乗り越え、よりよく生きる（D よりよく生きる喜び）
- 4 ねらい 友達のシャープペンシルを拾って自分のものにしてしまったことを言い出せなかった主人公の心情を通して、自分の心の弱さを見つめ、改めることの大切さについて考えさせ、自分も弱さを乗り越えて生きていこうとする道徳的心情を育てる。
- 5 教材名 「銀色のシャープペンシル」（中学道徳1 光村図書）
- 6 主題設定の理由

〔主題観〕

本主題は、内容項目D「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。」を基に設定したものである。

私たち人間は、よくないと分かっているながら自分の都合の良いように行動したり、自分が悪いと分かっているながら素直に謝罪ができなかったりするなど、誰しも心の中に弱さや醜さをもっている。

一方で、こうした弱さや醜さに打ち勝って、誇りある人間としてよりよく生きたいという願いをもっている。そして、自己の弱さや醜さと向き合うことで、それに打ち勝とうとする強さが自分の中にあることに気付くことができると思う。

この時期の生徒は、人間が弱さや醜さを抱くと同時に、強さや気高さをもつことを理解するようになる。しかし、自分に自信がもてずに、劣等感にさいなまれたり、人をねたみうらやましく思ったりする。そこで、自分を含め、人は誰でも人間らしいよさをもっていることを認める場面を設定することが重要である。また、決して自分の弱さに負けることなく、人として誇りをもって生きたいと願う心情を育てることが大切である。

〔生徒観〕

（略）

〔教材観〕

本教材は、友達のシャープペンシルを拾った主人公が、周囲の目を気にして、自分の物にして使ってしまったことを言い出せず、ごまかし続けるが、「疑ってごめん。」と、自分の非を素直に認め、謝罪の電話をしてきた友達の行動から、これまでの自分のずるさに向き合い、謝罪に向けて一歩を踏み出すという物語で、この時期の生徒にとって共感しやすい内容である。

導入では、生徒が本時の内容項目について主体的に考えることができるようにするため、問題場面を取り出し、「自分ならどうするか」を考えさせる。また、一般的に「謝りにくい、本当のことを言にくい状況になったとき、どうするか」という経験を想起させ、自分の中にある弱さや醜さに向き合うという課題意識をもたせる。

自分との関わりで考えを深めさせるために、「謝罪の行動を起こすならどの場面を選ぶか」という問いかけをする。そして、自分ならこのように謝罪するという役割演技をすることで、実際に行動することで得られる良さや、難しさを実感させたい。

中心発問では、「『僕』に、どのような心の声が聞こえたのか」を具体的に考えさせ、「僕」が自分のずるさに向き合う場面を深く掘り下げていく。このことによって、弱さや醜さを抱えたまま生きるのではなく、それを乗り越えて誇りをもってよりよく生きたいと願うのが人間なのだという事に気付き、人間のもつ強さについて考えを深めさせたい。

- 7 準備物 場面絵 役割演技で用いる小道具 ワークシート

8 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問と予想される生徒の動き (○：主な発問，◎：中心発問)	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1 問題場面を教員の役割演技で見る。	<p>○ こんなとき，皆さんはどうしますか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「あ，シャーペンが落ちている。芯も入っている。なくしたばかりだからちょうどよかった。もらおうっと。」</p> <p>そして数日後。授業中に使っていると，「あれ，それ僕のなくしたシャーペンじゃないかな。ちょっと見せて。」</p> <p>「おまえ，人のシャーペンとったのか。」</p> </div> <p>A【ごまかして返す】 B【謝って返す】 C【うそをついてそのままにする】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A 「いや，落ちていたのを拾ってそのままうっかり自分のものにしてたんだ。」 ・ B 「卓也のものだったのか，ごめん。」 ・ C 「自分のものだよ。」 <p>○ 自分の間違いを，素直に認めたり，謝ったりするのが難しいのはなぜだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 色々言われるのがめんどうだから。 ・ 悪い人と思われたくないから。 ・ 人の心は弱いものだから。 	<p>○ 問題場面を取り上げ自分ならどうするかを考えさせることで，「ちょっとくらいいいだろう」「自分の間違いをごまかしたい」という心の弱さを誰もがもっているという課題意識をもたせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習のテーマ 心の弱さを見つめ，乗り越える </div>			
展開	2 教材「銀色のシャープペンシル」を読んで話し合う。	<p>○ 「僕」の行動や気持ちの中で，「心の弱さ」はどこにあったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 落ちているシャーペンを自分のものにする。 ・ 健二にはやし立てられ，嘘をついた。 ・ 自分の非を認めず，健二や卓也のせいにする。 ・ こっそりシャーペンを返してごまかそうとする。 ・ 疑ったことへの謝罪の電話をした卓也に本当のことを言わない。 <p>○ 「僕」の心の弱さ（少しくらいいいか，人に悪く思われたくなくて嘘をつく，自分の悪いところを認めない，ごまかす等）に自分はどれくらい共感できますか。数直線上に共感度を数値で表しましょう。また，その理由を書きましょう。</p> <p>○ 黒板の数直線上の共感度にネームカードを貼り，理由を発表しましょう。</p> <p>【80～100】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共感できる。自分でも同じようなことをす 	<p>○ 「僕」の問題ある言動を明確に捉えさせる。</p> <p>○ 数値化させることで，自分自身と向き合わせる。</p> <p>○ ネームプレートを貼り，視覚化することで，話し合う視点を明確にする。</p>

	<p>3 自分ならどうするかを役割演技を通して考える。</p>	<p>ると思う。</p> <p>【50～80】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部共感できる。人のものを使ったりしないが、一度ついたうそを取り消すのが難しいのは分かる。 <p>【0～50】</p> <ul style="list-style-type: none"> 共感できない。そんなことはしない。 <p>○ あなたがもし、本当のことを言うとしたら、次のどの時点ですか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A 健二に「卓也のシャーペンとったのか。」と言われたとき。</p> <p>B 卓也に「少し君のことを疑っていたんだ。ごめん。」と電話で謝られたとき。</p> <p>C 「僕」と同じで、電話を切った後、しばらくしてから。</p> </div> <p>○ 実際に演じてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> A 「ごめん、実はちょうど自分のをなくしたばかりだったから拾ったものを自分のものにしたんだ。」 B 「ごめん。卓也が謝らなくてもいいんだ。卓也が思っていたとおりに、実は自分が拾ったものを使っていたんだ。」 C 「ごめん。さっきは電話で言えなかったけれど、本当は拾っていたものを僕が使っていたんだ。言い出せなくて。本当にごめん。」 <p>◎ 「僕」に、どのような心の声が聞こえたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 合唱コンクールの時も同じように人のせいにしてしまったな。それで本当にいいのか。 弱い自分のままで、本当に後悔しないのか。 絶対に本当のことを言った方がいい。これからの自分のためにも。 	<p>○ 自分ならこの時点でどのように伝えるかを役割演技で即興的にやってみることで、自分の中の弱さに気付かせる。</p> <p>○ 役割演技後は、実際にやってみて、どう感じたか、相手の意見を聞いて何を思ったか等、感じたり考えたりしたことを話し合わせる。</p> <p>○ 今までの自分と変わるきっかけになった心の声を具体的に考えさせる。また多様な意見に出合わせるため、ペアや全体で交流させる。</p>
<p>終末</p>	<p>4 今日の学習で気付いたことや学んだことを書く。</p>	<p>○ 今日の授業で考えたことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「僕」のずるさは自分の中にもある。実際に謝罪できるかどうか、少し自信がない。 嘘ばかりついていたら、自分が嫌になると思う。自分が変わろうと決意することが必要で、それが成長ではないだろうか。 ごまかしてばかりいる自分も確かにいるが、相手の心の広さを信じて、謝罪に行ける強い人になりたい。 	<p>○ 考えを深めるために、ペアや全体で交流する。</p> <p>☆ 弱さを見つめ、その弱さを克服することの大切さについて、自分との関わりで考えを深め、より多面的・多角的な考え方へと発展させているか。</p>